

腎移植患者さんのための

新型コロナウイルス ワクチンに関する Q&A

Q 1. 移植者の新型コロナウイルスワクチン接種は 推奨されていますか？

A 推奨されています

Q1-1 新型コロナウイルスワクチンを接種することでどのようなメリットがありますか？

A： 新型コロナウイルス感染症の発症と、発症後の重症化を共に大幅に減らす効果があります。また、新型コロナウイルスへの感染そのものの予防効果もあると見られています。

Q1-2 新型コロナウイルスワクチンを接種することで新型コロナウイルスに感染しませんか？

A： ワクチンによって新型コロナウイルス感染症になることはありません。

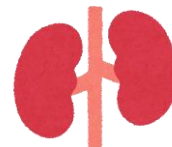
Q1-3 腎移植者は優先接種者の「基礎疾患を有するもの」に当てはまりますか？

A： 下記の 3、8 などに当てはまります。

1. 慢性の呼吸器の病気
2. 慢性の心臓病（高血圧を含む。）
3. 慢性の腎臓病
4. 慢性の肝臓病（肝硬変等）
5. インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病又は他の病気を併発している糖尿病
6. 血液の病気（ただし、鉄欠乏性貧血を除く。）
7. 免疫の機能が低下する病気（治療中の悪性腫瘍を含む。）
8. ステロイドなど、免疫の機能を低下させる治療を受けている
9. 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患

⋮

基礎疾患を有する者として、診断書等は必要ありません。予診票に記載していただき、必要があるときは、問診で病気や治療の状況などを確認されます。





Q1-4 新型コロナウイルスワクチンを接種することで、自分自身の遺伝子が組み換えられてしまうと聞きました。自分自身や子孫への影響はありませんか？
A：ワクチン接種で遺伝子に影響を与えることはありません。

Q 2. 移植者の場合、ワクチンを打つのと避けるのではどちらがリスクが高いですか？

A 臓器移植患者さんが新型コロナウイルス感染症に罹患すると、非臓器移植患者に比べて重症化するリスクや死亡率が高いことが示されています。また残念ながら感染してしまった患者さんのうち、感染経路がわからない方が沢山いらっしゃることから、感染予防にも限界があることが示唆されます。ワクチンを受ける、受けないはご自身の判断に委ねられていますが、感染や重症化のリスクと、わずかな確率のアナフィラキシー、mRNAワクチンと直接の因果関係が証明されていない事象（くも膜下出血、大動脈解離、血栓症など）を比べて、ワクチンを接種することの意義をよく考え、接種を検討してください。

また、移植後1か月経過してからワクチンを接種することを推奨しています（血液型不適合などで、リツキサンというお薬を投与した場合は3-6か月後）。

Q2-1 新型コロナウイルスワクチン接種は、拒絶反応など移植した臓器に影響は ありませんか？



A：これから多くの知見の集積が望めます。ワクチンの接種のタイミングと拒絶のタイミングが合致した症例報告は散見しますが、ワクチンが拒絶をおこしたという根拠はありません。ファイザーのワクチンで心筋炎の報告がありますが、軽症例がほとんどです。

Q2-2 移植者が新型コロナウイルスワクチン接種にあたり、注意事項やその後の副反応など特に注意すべきことはありますか？

A： 移植者だから副反応が起こりやすいということはありません。ただ、37.5度以上の発熱や倦怠感など全身症状が3日以上続くなどの場合は移植施設に連絡しましょう。また、ワクチン接種後はあまり間を置かずに定期受診をするようにしましょう。

Q2-3 他のワクチン(インフルエンザワクチン)や薬のアレルギーで体調が悪くなったことがあります。新型コロナウイルスワクチン接種をしてもよいですか？

A：接種するワクチンの成分に関係のないものに対するアレルギーを持つ方も接種は可能です。これまでに薬や食品など何らかの物質で重いアレルギー反応を起こしたことがある方は、問診の際にその旨を必ず伝えてください。また接種後、通常より長く（30分間）、接種会場で待機していただきます。

Q2-4 新型コロナウイルスに感染したことがあります。その場合でも新型コロナウイルスワクチン接種は受けた方がよいですか？

A：新型コロナウイルスに感染した方もワクチンを接種することができます。現時点では通常通り2回接種します。むしろ接種を推奨している国もあり、これは、このウイルスが一度感染しても再度感染する可能性があることと、自然に感染するよりもワクチン接種の方が新型コロナウイルスに対する血中の抗体の値が大幅に高くなることが報告されているからです。

Q2-5 新型コロナウイルスワクチン接種は、移植施設以外の集団接種、職域接種や個別接種で受けてもよいですか？

A：現在は、集団接種、職域接種、もしくはお住まいの近くの医療機関でワクチンを接種することになっています。これから変更になる可能性がありますので、住民票のある市町村のワクチン情報を頻繁にチェックしてください。またワクチン接種会場が混雑することを危惧されるかもしれませんが、普段通りマスクをし、手洗いを行うなど感染予防策をとっていただければ問題ありません。





Q 3.免疫抑制剤は新型コロナウイルスワクチンの効果に影響を与えますか？

A 免疫抑制剤を服用している方は、していない方に比べてワクチン接種後の抗体（体内に病原体などがはいつたとき、それを攻撃したり体外に排除したりするために作られるタンパク質）の産生が少ないと言われています。現在移植者に対するワクチンの効果について、調査が進められています。

Q3-1 新型コロナウイルスワクチン接種するとき、免疫抑制薬の服用に注意すべきことはありますか？

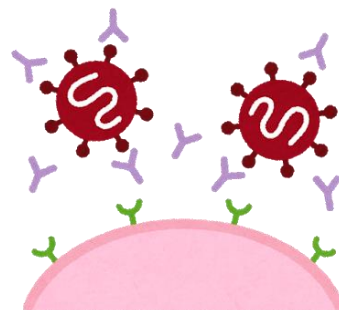
A：特にありません。ご自身の判断で免疫抑制剤は調整したりせず、普段通りに服用してください。

Q3-2 新型コロナウイルスワクチンを打つ日も免疫抑制剤は通常の時間に服用しても良いですか？

A：免疫抑制剤は普段通りの時間に服用してください。

Q3-3 免疫抑制剤以外の薬（抗凝固薬、抗血小板薬、抗菌薬、抗ウイルス薬など）は、新型コロナウイルスワクチンに影響を与えますか？

A：凝固薬や抗血小板薬を服用している方は、接種後2分間以上接種部位を抑えてください。



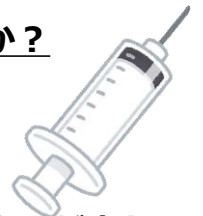
Q 4.新型コロナウイルスワクチンの副反応には どのようなものがありますか？

A 副反応の出現が50%以上→接種部の痛み、疲労(倦怠感)、頭痛
10-50% →筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1-10% →吐き気、嘔吐
(コミナティ®添付文書より抜粋)

稀な頻度でアナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生することがあります。

Q4-1 移植者は新型コロナウイルスワクチンの副反応がやすいですか？

A： 移植者に副反応が出やすいという報告はありません。




Q4-2 移植者が新型コロナウイルスワクチン接種後に、発熱などの副作用が出た場合の対処方法に特に注意すべきことはありますか？

A： 一般的に、発熱は接種後1～2日以内に収まるため、アセトアミノフェンなどの解熱剤で対応してください。しかし37.5度以上の発熱や倦怠感が3日以上続く、解熱剤が効かない、発熱や倦怠感以外の症状がある場合は、移植施設もしくはかかりつけ医に相談してください。

Q4-3 副反応が出た場合は、移植医やRTC（レシピエント移植コーディネーター）に報告する必要がありますか？

A： 1～2日で収まる場合は、定期受診時に副反応について報告してください。37.5度以上の発熱や倦怠感が3日以上続く、解熱剤が効かない、発熱や倦怠感以外の症状がある場合は、定期受診を待たずに移植施設もしくはかかりつけ医に相談してください。





Q 5. 移植者の新型コロナウイルスワクチン 接種後の感染予防効果はどれぐらいですか？ またその効果はどの程度持続しますか？

A 現在、移植者のワクチンの効果について具体的なデータは得られていません。現在様々な調査が行われていますので、情報が集まり次第公開します。

Q5-1 今後、毎年新型コロナウイルスワクチン接種を受けるようになりますか？

A： 新型コロナウイルスワクチンの効果がどれだけ続くか、まだ明らかではありません。今後のワクチンのスケジュールなど、情報が得られ次第公開します。

Q5-2 新型コロナウイルスワクチン接種と肺炎球菌やインフルエンザなど他のワクチン接種との接種間隔など特に注意すべきことはありますか？

A： 現在日本では、新型コロナウイルスワクチンとその他のワクチンは、互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種できます。

Q5-3 新型コロナウイルスワクチン接種後の生活に注意する点がありますか？

A： ワクチン接種完了後も感染リスクがゼロになるわけではありませんので、ワクチン接種の状況にかかわらず、マスクやソーシャルディスタンスなどの感染予防対策を続けてください。

Q5-4 マスクをはずして自由に外出したり、会食できるようになりますか？

A： 引き続き、感染予防対策を継続していただくようお願いします。



Q 6. 生体ドナーは、新型コロナウイルスワクチン接種に関して特に注意すべきことはありますか？

A 特にありません。
また臓器提供後、いつ接種していただいても問題ありません。



Q6-1 臓器の提供を予定しています。 新型コロナウイルスワクチンを接種した方がいいですか？

A： ワクチンの接種は自由意志ですが、感染予防の観点から、接種が推奨されます。臓器提供手術の2週間前までに2回目の接種を済ませることが望まれます。しかし、生命に関わる移植で時間の猶予が無い場合はその限りではありません。詳しいスケジュールは、臓器提供が予定されている施設にご相談ください。

Q 7. 移植待機中で、いつ移植手術となるか分かりません。 新型コロナウイルスワクチンを接種してもいいですか？

A 安全に移植を待機するためにも、ワクチン接種を済ませることが推奨されます。しかし、生命に関わる移植で手術まで時間の猶予が無い場合はその限りではありません。

Q7-1 新型コロナウイルスワクチンを接種していなくても、移植手術を受けることはできますか？

A： ワクチン接種は自由意志ですので強制するものではありませんが、安全に移植までの間を過ごすために、ワクチン接種が望まれます。

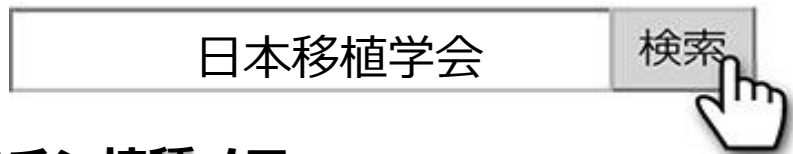
Q7-2 新型コロナウイルスワクチンを接種したあと、すぐに移植手術を受けることができますか？

A： ワクチン接種後すぐに手術を受けた場合、手術そのものや術期の薬剤がワクチンの効果を減弱させる可能性があり、術前2週間までに2回目の接種が完了していることが望ましいとされています。しかし、ワクチン接種の後たまたま移植の順番が来たときなどは、この限りではありません。

日本移植学会ホームページの
「COVID-19関連 最新情報」を
ご覧ください



「腎移植患者さんのための新型コロナウイルスワクチンに関するQ&A」は
日本移植学会のホームページに掲載されているものを抜粋しています。
ここに掲載されている以外のQ&Aについてお知りになりたい方は、
日本移植学会のホームページをご覧ください。



わたしのコロナワクチン接種メモ

1回目

- 日時 月 日 () 時間 :
- 場所

2回目

- 日時 月 日 () 時間 :
- 場所